

2025年環境目標

環境ビジョン2050		2025年度 環境目標	2025年評価	2025年達成状況
<p>2050年目標</p> <p>自社の脱炭素化</p> <p>GHG排出量ネットゼロに挑戦</p>	<p>2030年中期マイルストーン</p> <p>自社の低炭素化</p> <p>CO2排出効率2008年比50%改善</p>	<p>&lt;運航効率(燃費)改善の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減速運航によるCO2排出削減</li> <li>AI活用による性能解析による運航管理の高度化</li> <li>船底汚損シミュレーション機能による適切な船底掃除実施。</li> </ul> <p>・自社のGHG排出量の可視化</p> <p>&lt;低炭素・脱炭素燃料の導入検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LNG、アンモニア等燃料船の導入検討</li> <li>バイオ燃料等のカーボンニュートラル燃料の使用</li> </ul> <p>&lt;自動カイトシステムSeawingの実証と普及への貢献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風力推進補助システム「Seawing」の開発及び実証</li> </ul> <p>&lt;その他新技術の検討と導入&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新造船建造計画にて省エネ機器・付加物の採用を検討する</li> <li>メタンスリップ、N2Oの排出を抑制する仕様を検討する。</li> <li>船上CO2回収技術の検討</li> </ul> <p>&lt;陸上の取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上事業所での電力総消費量及び使用電力に伴うGHG排出量目標値(上半期200,000kwh&lt;88.5t-CO2&gt;、下半期201,000kwh&lt;89.0t-CO2&gt;)以下にする。(飯野ビル、フォートタワー、合計)</li> <li>再生エネルギー由来電力の導入促進</li> <li>自社ターミナルにおける荷役機器のハイブリット化によるCO2削減</li> </ul>	<p>○</p>	<p>&lt;運航効率(燃費)改善の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>状況が許す限り、減速運航またはSuper Slow Steamingの積極的な実施</li> <li>船舶の性能定数監視の継続および運航効率改善に向けたモニタリングの実施</li> <li>2008年Bulk船AER比23%の達成</li> <li>稼働した7隻全船での船板・プロペラ・船首形状等の適正船型の採用</li> <li>船底掃除ロボットを導入検討および効果検証の実施、結果の関係者への共有</li> </ul> <p>&lt;低炭素・脱炭素燃料の導入検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各営業部門と連携したガス燃料船導入の検討</li> <li>当社運航船向けバイオ燃料・LNG燃料の調達検討およびアンモニア・メタノール等の新燃料に関するサプライヤーからの情報収集</li> <li>顧客面時におけるカイト活用や環境規制動向に関する説明の実施</li> </ul> <p>&lt;自動カイトシステムSeawingの実証と普及への貢献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月末までの3回の飛行試験の実施</li> </ul> <p>&lt;その他新技術の検討と導入&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新造船計画時における水エネボイラー・インバート等の省エネ機器の採用(10隻中8隻)</li> <li>陸上4隻中3隻への省エネ付加物(SURF、RBWF、PBGF)の採用</li> <li>新造船計画時におけるメタンスリップ削減に資する仕様の検討・採用</li> <li>船上CO2回収技術について、低濃度CO2吸着に適した吸着剤の合成および船用エンジン・船用機器メーカーとの実用化に向けた協議の開始</li> </ul> <p>&lt;陸上の取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飯野ビルでの目標値比2.3%超過、日比谷フォートタワーでの目標値比2.4%削減</li> <li>電力使用量削減に向けた飯野ビル・日比谷フォートタワー双方の実績確認および継続改善</li> <li>自社ターミナルにおけるCO2削減施設としてのハイブリッドRTGの新規導入</li> </ul>
<p>社会の脱炭素化支援</p> <p>社会の脱炭素化を支える新しいエネルギー</p> <p>輸送・供給の担い手に</p>	<p>社会の低炭素化支援</p> <p>社会の脱炭素化に向けた新しいエネルギー</p> <p>輸送・供給の推進活動の強化</p>	<p>&lt;社会の脱炭素化に貢献する新ビジネスの展開・拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水素・アンモニアの活用に関する、国内外の団体への加盟を通じて、輸送事業等としてサプライチェーン構築に貢献する。</li> <li>大型液化水素運搬船を使用した商用化実証事業に参画し、商用レベルでの社会の水素利活用に向けて活動</li> </ul> <p>・洋上風力発電等の再生エネルギー関連やOCUS案件の事業開発、実証事業への参画</p> <p>・CNP(Carbon Neutral Port)実現に向けた取組みを促進、各港CNP検討会への参加および事業検討する。</p> <p>・船舶向けLNG燃料供給事業の継続及びアンモニア燃料供給船の検討</p> <p>・未来海洋環境調和型材料の社会実証</p>	<p>○</p>	<p>&lt;社会の脱炭素化に貢献する新ビジネスの展開・拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水素・アンモニアに関する各種プロジェクトの順調な推進</li> <li>CNP実現に向けた東京、横浜、名古屋、大阪、神戸の各港におけるGNP推進協議会等への参加</li> <li>船舶向けLNG燃料供給船の導入検討</li> <li>未来海洋環境調和型材料の社会実証に向けた実証研究・船用エンジンメーカー・船用機器メーカーとの協議開始</li> </ul>
<p>自社からの海洋・大気への環境影響の限らないゼロ化</p> <p>・油濁事故ゼロ</p> <p>・船舶運航における海洋・大気への環境影響の限らないゼロ化</p>	<p>自社からの海洋・大気への環境影響の限らないゼロ化</p> <p>油濁事故ゼロを含む船舶運航における海洋・大気への環境影響の限らないゼロ化</p>	<p>&lt;油濁事故ゼロのための取り組み推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理システム(SMS)を徹底履行し、船舶からの漏油等の発生件数ゼロ</li> <li>船員改善活動のための検閲:170隻/年</li> <li>安全運航Circularを各船主に発着することによる安全運航の注意喚起</li> <li>過去の漏油事故を教訓とした安全キャンペーンの実施(年150隻)</li> <li>油濁防止のための設備・機器搭載の検討等、本船設備の機器からの油濁事故を防止するための対策実施</li> <li>テクノロジーや最新技術を活用した、安全運航の推進</li> </ul> <p>&lt;船舶運航における環境影響低減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋運航への影響を低減し得る対策</li> <li>バラスト水の含有量の最少化</li> <li>条約および地域規制の動向を注視し、船種・航路に合った最適なバラスト水処理装置の設置及び技術的サポート強化</li> <li>海洋生物への環境影響を低減する船舶の建造を検討</li> <li>環境配慮型塗料(低揮発塗料)等、海洋汚染への影響の少ない防汚塗料の採用を検討</li> </ul> <p>&lt;船舶から発生する大気汚染物質の低減(黒煙、PM、CO2、SOx、NOx)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新造船や既存船に受電設備(GOLD IRONING)設置の検討</li> <li>入港時の排ガス回収・リサイクルの実施</li> <li>蓄電池採用の検討</li> <li>低炭素塗料油を使用するための設備の検討</li> <li>新造タンカーへVOC(揮発性有機化合物)排出抑制装置の検討</li> </ul> <p>&lt;船舶で利用する消費資源の最少化と廃棄物の最少化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>船内廃棄物の削減による再利用を含めた船内発生する廃棄物の分別及びリサイクルの促進</li> <li>Garbage Management Planの適正運用し、本船からの廃棄物発生量の削減</li> </ul> <p>&lt;陸上における環境影響低減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上事業所での従業員一人当たりの水道水使用量の削減</li> <li>目標値(上期225m<sup>3</sup>、下期225m<sup>3</sup>)</li> <li>ペーパーレスの推進による従業員一人当たりのOA用紙使用量の削減(上期800枚/下期800枚以下にする。)</li> <li>陸上事業所における廃棄物の削減:リサイクル可能な容器包装廃棄物の分別促進(リサイクル率87%)</li> <li>グリーン調達:調達率70%</li> </ul> <p>&lt;乗組員/構成員への環境研修・教育の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各港セミナー、環境E-learning教育(年1回)の実施</li> <li>社内サセナーへの積極的参加</li> <li>乗組員ブリーフィングでの管理教育</li> <li>Kline Maritime Academyでの各種研修の実施</li> </ul> <p>&lt;ステークホルダーとの対話促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当社環境政策の開示・発信内容(統合報告書・ウェブサイト他)の充実と説明会等の拡大</li> </ul>	<p>○</p>	<p>&lt;油濁事故ゼロのための取り組み推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稼働した10隻全船へのエアースール式船尾管シール装置、水溶性潤滑油、Bilge primary tankの採用</li> <li>上半期172隻、下半期148隻でのISBT換船の実施および不具合発生時の換船結果報告書による船主への改善要請</li> </ul> <p>&lt;船舶運航における環境影響低減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条約および地域規制の動向を注視し、船種・航路に合った最適なバラスト水処理装置の搭載</li> <li>稼働した10隻全船への環境配慮型塗料(低揮発塗料)の採用</li> </ul> <p>&lt;船舶から発生する大気汚染物質の低減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>停泊中のCO2排出削減に向けた蓄電池利用の検討</li> <li>新造船に対する自動車の排ガスからの炭素排出対策の検討</li> <li>担当監督および内部監査によるSMS手順遵守状況の確認徹底</li> <li>稼働する全船について、案件ごとの設備設置の推進、ガス燃料船エンジンの採用、またはEGCS非搭載船舶への低炭素塗料対応設備の設置の検討・実施</li> <li>対象となるタンカー新造船不在によるVOC排出抑制装置に関する目標達成</li> </ul> <p>&lt;船舶で利用する消費資源の最少化と廃棄物の最少化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜港および神戸港での貨物固着資材の回収・リサイクル、合計2,032kgの回収</li> <li>内部監査やK-IMSデータを通じた該当廃棄物の海洋投棄ゼロの確保</li> <li>管理船3隻での廃油焼却の実施</li> </ul> <p>&lt;陸上における環境影響低減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上事業所での従業員一人当たり水道水使用量190m<sup>3</sup>、目標値比16%削減</li> <li>OA用紙使用量591枚/人、目標値比1.5%削減</li> <li>リサイクル率の目標値超過(飯野ビル3.9%、日比谷フォートタワー2.3%)</li> <li>グリーン調達におけるエコ商品比率の目標値比3.5%超過</li> </ul> <p>&lt;乗組員/構成員への環境研修・教育の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境E-learningの年1回開催</li> <li>乗組員ブリーフィング等による管理教育の実施および実施率100%(64名)の達成</li> </ul> <p>&lt;ステークホルダーとの対話促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当社環境政策の開示・発信内容の充実推進</li> </ul>
<p>社会の環境改善支援</p> <p>・社会の環境改善支援</p> <p>・生態系保護の泉源トッピング</p>	<p>社会の環境改善支援</p> <p>社会の環境改善に向けた対話・活動の強化</p>	<p>&lt;グリーン・シップリサイクル対応強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社内方針に基づいたグリーン・シップリサイクルヤードでの併設</li> </ul> <p>&lt;海洋プラスチックゴミ回収・調査等参加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京海洋大学と共同で海洋プラスチックゴミの調査・回収活動の実施</li> </ul> <p>&lt;環境保全ボランティア活動の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「森林保全活動」もしくは「海岸清掃」の実施</li> </ul>	<p>○</p>	<p>&lt;グリーン・シップリサイクル対応強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディア対応を含む適切な情報収集と社内外への展開、関係団体と連携した対応の推進</li> </ul> <p>&lt;海洋プラスチックゴミ回収・調査等参加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先方更なしとする海洋プラスチックごみ調査活動の未実施</li> </ul> <p>&lt;環境保全ボランティア活動の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸の山荘による森林保全活動の中止</li> <li>海岸清掃活動の実施(1回)</li> <li>海岸再生活動に関する関西地区のグループ会社を含めた研修の実施(1回)</li> </ul>